

総合教育会議 会議録

平成28年5月18日
五ヶ瀬町役場応接室

1. 出席者 首長側 : 町長 原田 俊平
教育委員会側 : 教育長 島寄 善真理
教育長職務代理者 菊池 清隆
教育委員 松本 学
教育委員 興梠 瞳
教育委員 石井 勇

説明者等 : 総務課長 小迫 幸弘
行政グループ長 北島 隆二
教育次長 武内 秀元

2. 進行 総務課長 小迫 幸弘
3. 書記 行政グループ長 北島 隆二 教育次長 武内 秀元
4. 協議

- (1) 「五ヶ瀬町の教育に関する大綱」の訂正について
- (2) 鞍岡中学校跡地利用協議に関する今後の体制について
- (3) 本町児童生徒へのスキー教室について
- (4) 町史再編さんについて
- (5) 町立学校施設の改修について
- (6) 給食調理員の任用替えアンケートの実施について

会議録 午後3時56分開会

Q…Question (質問), A…Answer (回答)

O…Opinion (意見)

E…Explanation (説明)

町長あいさつ

お疲れ様です。

本日は、平成28年度の第1回の総合教育会議ということで、昨年度から総合教育会議がスタートして、首長もそれに参加させていただきながら、教育委員会と連携して教育行政を推進するというところで改正された訳であります。

現在、色んなところで第3セクターについての協議をやっております。昨年度のスキー場が厳しい状況であったことを受けて、第3セクターの有り方、今後の進むべき道をしっかり議論しなければいけない時期になってきております。県を含め、色んな機関と協議をしているところでございます。

また、4月14日、16日の熊本地震において熊本地方は当然ですが、西臼杵3町、椎葉、諸塚も含めて、色んなところで被害を受けております。

本町でも、学校で特に水が濁ると、非常に子ども達に弁当を持って来るとか、教育長、教育次長を含めて、色んな対応をいただきました。何とか現段階では落ち着いておりますが、まだ余震も続く中で余談を許さない状況でございます。

私は、4月20日に南阿蘇村、高森町、山都町については、お見舞いを兼ねて物資の提供に行った訳ですが、昨日、一昨日、西臼杵3町で正式に、今言った町村にお見舞いと、それから今後の復興へのお手伝いについて、しっかりお伝えをしてきたところでございます。

また、教育委員の皆さんも熊本とは近い縁の方々もいらっしゃると思いますので、またこれからも支援活動が続くと思っております。役場職員も職員互助会が中に立って、週末のボランティア活動をやるという動きで、当面そういった形で協力出来る職員は是非ということで動き出したところでございます。

そういったものも含めて非常に状況で動いておりますけれども、五ヶ瀬の問題は五ヶ瀬の教育と、鞍岡中学校の跡地問題も正式には決定していないところもございまして、教育委員さん方の意見も伺いながら、方向性が決まればと思っております。

今日は、限られた時間ですけれども、宜しくお願い致します。

(ここから町長が進行を務める。)

【3. 協議】

1 「五ヶ瀬町の教育に関する大綱」の訂正について

① 資料に基づき、教育次長が説明する。

説明事項

第5次五ヶ瀬町総合計画の後期基本計画について昨年度、策定委員会で協議された折、「1.学校教育—学校教育の現状と課題」の最後の行で「なお、小学校の統廃合については、当面、予定はありません。」としていた。これは、中学校の統廃合が行われたばかりで小学校の統廃合については当面触れてほしくないという地域からの声に配慮したことと、計画の終期が平成32年度までということで、この時期までに統廃合はないだろうという理由であった。

しかしながら、後期基本計画策定委員会において、統廃合はしなくても、検討の必要性はあるのではないかという意見が上がり、「なお、小学校の統廃合については、児童数等の状況を踏まえ検討を行います。」と変更することとした。

これに合わせ、五ヶ瀬町の教育に関する大綱も同様の変更を行うこととした。

質疑、意見等

○1 【菊池委員】教育委員会でも、当面予定はないとしていたが、総合計画の

検討委員会で委員の方から意見があり、絶対（統廃合しない）ということとは有り得ないということで、作り直して、それらしき対応が出来るような体制と取った方が良いのではないかということになった。

- 1 【町長】ここで規制をするということではないと思うし、児童数の状況を踏まえ検討するというのは当然のことなので、5年以内には統廃合はないということだが、そういう中での表現の改正ということで、私個人も妥当かなと思うが如何か。

決定事項

【町長】訂正については承認するという事によろしいか。

【教育委員】意見なし。

2 鞍岡中学校跡地利用協議に関する今後の体制について

- ① 資料に基づき、教育次長が説明する。

説明事項

- 5月19日に役場職員での検討会を行う。その資料に基づき、まず平成27年度に協議した経緯を説明する。
 - ・ 委員は、19名で組織し、鞍岡地区選出議員、鞍岡地区公民館長、鞍岡地区教育委員、小・中学校長、小・中学校振興会長、自然学校代表、企画課長、福祉課長、教育長、教育次長で構成した。
 - ・ 第1回の検討部会で、①小学校移転、②高齢者福祉施設、③大学サテライト、④世界農業遺産拠点施設という、4つの案が出された。
 - ・ 検討部会等の開催回数は、検討部会を5回、アンケート調査、視察研修を行った。第3回の検討部会では、町長が出向き、町の方針について説明を行った。町の方針は、公民館機能を備えた複合施設を考えていることを説明した。
- 5月から7月までの3ヶ月間の予定で、教育長を委員長に、関係課の総務課、企画課、福祉課、教育委員会職員10名で、ワールドカフェ方式で検討を行う。その後、地域の住民で検討組織を再編する予定である。これまで、教育委員会が主管課として推進していたが、町の施設ということもあり、今後は主管課を移管したいと考えている。
- 自然学校の杉田代表から、跡地の利用について17項目ほど提案をいただいている。また、昨年のアンケート調査で五ヶ瀬中等教育学校の5年生数名から提案をいただいている。現在も継続して検討しているということで、一度行政側の話しも聞きたいという要望があり、今後担任の先生と連絡を取り合いながら、日程を設定したいと考えている。

質疑、意見等

- E1 【町長】昨年度の協議の経緯について説明があり、特に鞍岡地区の議員

さん、PTA、公民館長さんを含めた協議に、私も3回目に出席させていただいた。鞍岡地区公民館が古くなっており、使い辛い。2階のトイレ設置の要望も出ているが、待っていただいている。中学校跡地を鞍岡地区の自治公民館の活動拠点として、まずは設定出来たら良いのではないかと話しをさせていただいた。自然学校の杉田氏のNPO活動等の多目的な施設として、鞍岡地区の方々に使っていただく。それから、宮崎大学の地域創生学部が、今年4月からスタートしているので、根岸ゼミを含め今まで連携してきている部分もあり、またCOC事業ということで農学部との連携協定を結んでいるので、そういったサテライト的な使い方も出てくるので、複合的施設が良いのではないかと話しをさせていただいた。

ただ、小学校移転の意見も根強くあるので、最終的に教育委員会としても方向性を正式に出せてないというふうに理解している。

今回、地元の地区民ではなくて、行政を中心とする中でしっかり議論していただいて、方向性が委員会で出れば、それを尊重しながら、それを地域にしっかり説明し、ある程度方向性を決めないと、今後の施設の改修とか、利用の目的に対する予算の充て方とか出てくるので、今年度中には整理をして次のステップを踏む必要があると考えている。

また、杉田氏がRQ九州という災害復興支援のためのボランティア団体を立ち上げて動かれている。当初は、五ヶ瀬ドームで支援物資を受け取る拠点として活動されていたが、社会教育の活動が滞ってくるということと、合宿等も入ってくることもあり、馬見原中学校跡地の体育館の方に拠点を移しているが、次へのステップとして改めて拠点施設を確保する必要があり、鞍岡中学校跡地を使えないかという打診があり、私個人は使用すること方向で良いと考えている。

E2 【教育長】昨年度の検討部会の中で、第5回の検討部会の時に、最終的な方向性として協議したいということを目頭申し上げて、その後、会員にアンケートの結果等から複合型の多目的施設で行くということによろしいですねということでも全会員同意した。

Q1 【石井委員】最終的にどこが決めるのか。町として決めるのか、教育委員会なのか、総合的に決めるのか。

A1 【町長】町の施設なので、私の方で決めさせていただくことになると思う。ある程度、教育委員会で説得してもらって、最終的には町が決めることになる。

O1 【石井委員】昨年、第4回の検討委員会に参加させていただいたが、小学校を移転したいというのは、当たり前ではあり、学校としたというのは、あの施設が街の中央にあるからとか、心情的な問題もあると思うが、

移転しただけでは、将来また同じ問題が出てくると思う。鞍岡地区の方にとって、どういった形が本当に一番良いのか、基本的に学校にしたにしても、人を増やせないにしても、いかに人の減少を留めるかを考えていけば、もっと鞍岡の人達が使う方向とか、地域振興のために使うとかが一番良いと思う。ただ、心配しているのは、住民にどれだけ聞か、住民がどれだけ携われるかによって全然違ってくると思う。いかに住民を会に引っ張り込んで話しをさせるか、話しをした人は多分興味を持つことになると思う。町がストレートに決めるのではなくて、勿論そういった気持ちはないと思うが、住民を絡ませていって多目的な施設に持っていったら良いと思う。

今回、別の仕事で総合計画とスマートライフプランを見せてもらったが、もしかしたら旧鞍岡中学校校舎を活用すると完結するような気がした。中学校の校舎の役割は大きいと思うが、スマートライフプランとか、総合計画がスッポリ入るような施設なので、そこ等辺も考えて行けば上手い具合にセットでやっていけるのではないかと思う。

- 2 【菊池委員】今から検討を継続しても、これまでと同じような形が出てくると思う。今後、小学校の統廃合の話も出てくると思うが、アンケート調査の結果については、統廃合も考えた中での意見も出てきていると思う。ある程度は、アンケート結果で鞍岡地区の方の意見も反映されていると思うので、今後は町としての方向性を出していかなければ、また後戻りしてしまうのではないか。
- 3 【町長】小学校の統廃合は、いつかは議論せざるを得ない時が来るのでという議論はしていかないといけない。五ヶ瀬教育ビジョンで今の体制を堅持していきたいけれども、検討しなければいけない時期が必ず来るという前提で議論しなければ解決しない。
- 4 【教育長】この後は、地区住民を入れて、今まで入っていなかった、これから地域で生きていく人たちの若手、そして女性というように参加者を広げて意見を聞こうというふうになっている。では、その前に庁舎内で検討してある程度案が出た段階で、案を提示しながら地区住民が参画して意見をもらうという会の流れにしたいと考えている。
- 5 【興梧委員】色々、行政関係の説明会とかに行くが、行政の方々は内容を理解して住民に説明しているが、住民は初めてそれを聞くから具体的な内容が分からない。その答えの結果を発表されるので、こういう下地があってこういう結果になったという経緯を住民に説明してもらわないと分からない。経緯の説明なしにどうですかと聞かれても、行政が言うのであれ

ばそうかなというふうになってしまうので、例えば、「こういう現状があって、こういうところが足りないので、そこを補うためにこういうふうなことを考えています。」みたいに、出来るだけ具体的に分かりやすく説明してもらえると納得する。(経緯等の説明なしに) 難しいですとか説明されても、何が難しいのか分からないので、出来ればわかりやすく、意見が出しやすく、どうやったら住民がそこに入っていけるか、利用しやすい状況なのかを説明してもらおうと、もっと意見が出るのではないかと思う。

- 6 【町長】仰る通りです。昨年度は、鞍岡地区の方々の意見を聞こうというところで開催されたと思うが、公民館長さんたちが会議の後、地域で集まって議論されているのか、特定の方々が強く言われると、他の方は言えなくなるというような事もあって、意見が広まっていないのではないか。さっき言った、行政の部分でどういった課題があるのかを整理して、その中でこういう方向で行くべきではないかを検証して、やはりこれから五ヶ瀬を担っていく若者たちがどう考えているかを最優先させるということで、そこで方向性が決まれば、それで行きましょうということにしなければ進まない。

決定事項

- 【町長】事務局から説明のあった方向で今後進めて行くということによろしいか。
【教育委員】意見なし。

3 本町児童生徒へのスキー教室について

- ① 教育次長が説明する。

説明事項

- 本町の小学生、中学生はスキー教室を行っている。スキー場の昨シーズンの入場者数が3万人台で経営が厳しかったということや、今回、熊本地震が起きて、今シーズンオープンした時にどうなるのか、オープンすべきかどうかと町長も頭を抱えていらっしゃる状況である。その中で仮に今シーズンはスキー場をオープンしないというような決断がなされたときに、いかに五ヶ瀬の子供達はスキー場の恩恵を受けているかを伝えてほしいという意見があった。それについて協議いただけたらと考えている。経営を度外視したところで議論願いたい。
大人になった時にスキーが出来る優越感であったり、行動範囲が広がったりとかという意見もある。

質疑、意見等

- E1 【町長】株式会社五ヶ瀬ハイランドの件で、今も検討を重ねている。事の発端は、昨シーズンの入場者数が3万2千人ということであった。昨シーズンオープンしてから、気候の影響によるクローズが多かった。全国的

にもクローズに追い込まれるところが多く、お客さんがスキー場に行っても滑れないのではという感覚があって減ったのではないかと思っている。そういった中で、我々は経営者として経営しなければいけない訳で、4万人か4万5千人が採算ベースと考えているので、決算は6月に出るが、かなりの赤字が出ると考えている。

今後、第3セクターでやるのは厳しいが、民間での知恵出しも図っていきたくて考えている。アドバイザーとして全国のスキー場経営に携わっている方をお願いし、アドバイスとか現地調査とかをお願いし、何とかスキー場を九州の財産として、五ヶ瀬の財産として残す手を第一に考えていきたい。

ひいては、この議題の趣旨は、五ヶ瀬の子供たちがスキー教室で色々非常に良い経験をして、例えば進学するにしても就職するにしても、あの時スキー場でスキーをしていて良かったなというのは必ずあると思っている。子供たちにすれば非常に大きな財産になると思っている。

また、経営的にもスキー教室をやっていたら、スキー板やウェアのレンタル等で全て調達できるので利益率がグンと上がってくる。そういったところで、県教育長にも以前から特に県北の子供達を是非ローテーションで、スキー教室に来ていただけるようお願いしている。五ヶ瀬にいらっしゃった先生方が出られて、そういう体制を取られている学校もあるし、治山林道協会を通じて、町場の子供達に体験交流させている学校もある。そういうところで、五ヶ瀬の子供達はスキー場のメリットを受けているという意識を、しっかり町長として理解してそれをしっかり説明すべきではないかという意見があったところの話であるという理解している。

ただ、親がスキー場に子供を送って行くというのがネックなのかなと考えている。忙しいのに送って行くというのは親の負担になるので、それに代わってシャトルバスで送迎できるような定期路線が出来るといいのかなと私個人では思っている。

ということで、本町の子供達にとってスキー場があることの恩恵をPRすべきではないかという話しかないと思っている。

- E2 【町長】 今回の熊本地震で、パーキングセンターに5センチメートルくらいの幅の段差で30メートルくらいクラックが入った。直ぐに現場から連絡が入って、万が一地すべり等が発生したら大きな問題になるので、応急的に水が入らないように砂利を入れている。先日、熊本地震の調査に見えた国土交通省のテックフォースという技術集団の方々が高千穂に来られていたので、延岡の国道河川事務所長を通じてお願いしたら快く受けてもらい、宮崎大学の教授とともに見ていただいた。最終的に地すべりの可能性を判断するにはボーリングをして、そこに地形変動計を付けて当面調査をするしかない

と言われた。その後、スキー場建設時の図面を確認したら、地山と盛土のところにはクラックが入ったものと判断した。そういうことで、地震によって盛土部分が落ちたようである。それについては、調査費を計上して専門コンサルに調査をお願いしようと思っている。その結果、危ないということになれば、スキー場の今季の営業は無理である。また、熊本から約45%から50%のお客さんが来ていただいているので、今回の地震の影響を考えると、敢えて経営厳しい中で無理は出来ないところもあるので、ただ、こういう時だからこそ五ヶ瀬頑張れという声も至る所から聞いているので、しっかり判断しながら早めに今季の営業は決断すると考えている。

○1 【菊池委員】子ども達が自分とこの資源を利用してスキーをやっているのはありがたいので、しっかり見届けていきたい。

Q1 【菊池委員】今回の、熊本地震の激甚災害指定は熊本だけしかかからないのか。高千穂で石が落ちたというようなのは該当にならないのか。

A1 【町長】本来は熊本県だけということで、西臼杵は厳しいだろうという話であったが、激甚災害の指定を受けるようである。公共土木災害は大きく補助率の嵩上げがあるようである。災害復旧は、あくまでも原状復旧が原則なので、スキー場については道路でもないのが該当になるのは厳しいかなということであるが、企画課を中心にあたってもらっている。どちらにしても、あのまま放っておく訳にはいかない。

Q2 【菊池委員】昨年のような異常気象の中で、五ヶ瀬町としても今度は頑張ろうということで、4万人から4万5千人目指してやっていたが、異常気象等の影響は五ヶ瀬だけでなく、他の市町村でもあった訳で、今年終止符を打つのはどうかなと、今までの時間を考えた時に今年1年で（終わりという）考えを出すというのはおかしいのかなと個人的には思う。

A2 【町長】どこからか出資してもらうなり、予算が取れば良いが、財政と協議する中で、これだけ予算があればこれも出来るのだがというような事がある。今までスキー場があった五ヶ瀬の効果というか、無くなった場合のダメージ、まだ言葉でしか（数値では）言い表せないが、非常に大きなダメージを受けるだろうなということが想定されるので、しっかり段取りをして理解してもらって、今色んなところに手を伸ばし、色んなところから情報をもらいながら、私がやれる範囲は全てやっている。何とかお金を確保しないとどうにもならない。

○2 【菊池委員】みんなが機運を持つ体制づくりをしなければいけない。

4 町史再編さんについて

① 総務課長が説明する。

説明事項

今年、町制施行60周年を迎えることと、町史を最初に発行したのが昭和56年で、他の市町村では再編さんが終わっている。どこかでやるとすれば、60周年を機に進めるべきではないか。当然、教育委員会も関係することなので、どこかで取り組みが必要になる。今年度は、どのように進めるかというような基本的な事項等を決定しつつ、来年度以降の考え方を整理して、予算に反映するなりということをやれば良いのではないか。これについては以前から庁議でも出ていた。今日は、情報提供として、このような取り組みがあるという紹介で提案した。

質疑、意見等

E1 【町長】編さん室を作って体制を整える。役場職員も、自発型職員研修の中で、先進自治体に視察研修を行っており、制度事業を活用してやれるというような状況も出てきたので、早速、今年度から動き出そうかというところである。

5 町立学校施設の改修について

① 本年度、学校の改修に関する予算計上の状況について総務課長が説明する。

説明事項

- 1) 坂本小学校校舎改修費用
 - 2) 三ヶ所中学校校舎内装費用
 - 3) 三ヶ所小学校合併処理浄化槽設置費用（設計委託料及び工事請負費）
- 合わせて、社会教育施設についても総務課長が説明する。
- 4) Gパーク多目的広場照明取り替え費用・・・t o t o補助金交付内示有り

工事等が遅れることのないよう早めに取り掛かってほしい。

質疑、意見等

E1 【町長】昨年度、工事が遅れた事例があり、早めに着手していただきたい。教育委員会だけでなく、予算が付いているものは早めにやっていただきたい。

E2 【総務課長】町長が申し上げたように、教育委員会だけの話しではなく、全体的な話しである。

6 給食調理員の任用替えアンケートの実施について

① 総務課長が説明する。

説明事項

鞍岡中学校が合併して、調理員さんが、鞍岡中学校に1名、三ヶ所中学校に2名いらっしやって、現在、五ヶ瀬中学校が3名体制で、1名加配しているような状態

である。アレルギー関係の対処とかいう理由で配置している。将来にわたって加配分がどうなるのか、一般職への任用替えも検討する時期ではないかということで、役場全体でこれまで20数名減らしてきている現状もあって、足りない職場もあるので、その解消に向けても意向調査を実施したいということで、3月に保育所の調理員さんも含めて説明会を開催して、アンケートの趣旨について話しをさせていただいて、6月くらいにアンケート調査を実施したいと考えている。

また、今年度の予算で共同調理場の視察研修旅費が教育委員会で組まれているので、今後の人事に絡む部分なので、同じように検討していくものだと考えている。

質疑、意見等

E1 【町長】学校調理場が老朽化しており、中学校の統合もあり、福祉課を含め多岐にわたる行政運営をしている中で、こういった任用替えで全体のプールした行政職員で運営しようというところもある。今回、給食調理員の方で事務職として手を挙げる方はいませんかというもので、強制的にトップが判断してやるというものではないという前提がある。ただ、将来を見越して私がやりますという職員がいるなら、是非手を挙げてくださいという趣旨である。

もう一方では、行財政改革の議会の委員会があるが、学校以外でも統廃合をやらなければいけないところがある。中央保育所というところで、三ヶ所、坂本、上組が一つになったが上手く運営出来ている。鞍岡保育所と2つの保育所でやっているが、今後、保育所は国が民営化の動きがあり、保育所を改修するにしても公立保育所は出来ないというギャップがある。それでは、公立保育所と民間保育所の差を出さなければ、町でやっても意味が無くなるので、民営化についても、やるやらないは別にして検討を始めようと、先進地調査について予算化した。そういったところからスタートして、これで民営化もあるのではないかという意見が出れば、是非そちらの方向性も検討したい。

それから、病院も医師確保で大変な状況で、何とか医師を2名確保出来ているが、これが1名になれば派遣医師ではどうにもならないことがあるので、患者数が減って来ている状況もあり、財政的な問題で一般財源の投入も増えてくこともあるので、連携した地域医療をやれなければ、今のままではいけないという意見も出始めたので、去年から西臼杵3町の医療を考える会ということで、副町長と事務長レベルで協議を行っている。また、蘇陽病院との連携も蘇陽病院の院長と連携について検討している。ただ、入院施設とか医療体制はしっかり確保しなければいけないので、それを前提に町民に迷惑をかけない医療体制について議論している。そういったところが課題である。

閉会時刻 午後5時02分

(署名) 町

長

原 田 俊 平

教 育 長

島 崎 善 真 理

教 育 長
職 務 代 理 者

菊 池 清 隆

教 育 委 員

松 本 学

教 育 委 員

奥 沼 瞳

教 育 委 員

石 井 勇

会 議 録 調 整 者

武 内 秀 元